

2017年5月24日 モレノ大統領就任式関連
(2017年5月エクアドル内政 別紙)

5月24日、モレノ新大統領の就任式が行われた。同式におけるモレノ新大統領の演説内容等について、翌25日付の主要メディアが報じたポイントは以下のとおり。

1 各国出席者

(1) 国家元首の出席者

マクリ・アルゼンチン大統領 (体調不良の由で、開会后間もなく退出)

モラレス・ボリビア大統領

バチェレ・チリ大統領

サントス・コロンビア大統領

ソリス・コスタリカ大統領

モラレス・グアテマラ大統領

モイーズ・ハイチ大統領

エルナンデス・ホンジュラス大統領

カルテス・パラグアイ大統領

クチンスキー・ペルー大統領

ガリ「サハラ・アラブ民主共和国大統領」

(2) その他の高位の出席者

ディアスカネル・キューバ国家評議会第一副議長

オルティス・エルサルバドル副大統領

パストール・スペイン下院議長

メレンデス・ベネズエラ大統領府大臣

陳中国教育部長

Park Young-sun韓国国会議員等。

(なお、米本国からの出席は、フィッツパトリック (Mark Fitzpatrick) 国務省南米担当次官補代理の模様。)

我が国からは、西村康稔衆議院議員が特派大使として派遣され、出席した。

2 式次第

就任式は、出席者の入場後、10:05分に始まり、国旗入場、国歌斉唱、セラーノ国会議長演説、モレノ大統領就任の宣誓、大綬章授与、大統領就任に関する大統領令の署名、グラス副大統領就任の宣誓、コレア前大統領退場、モレノ大統領就任演説、キト市歌斉唱、国旗退場、大統領、副大統領、国会議長、各国代

表の退場の順で行われた。

なお、事前には、コレア前大統領の挨拶があり（順番は、上記の議長演説の後。）、かつ同前大統領の退場も新正副大統領の退出の後であるかのように、伝えられていたが、実際には上記のようになった（即ち、右挨拶はなし。また、新副大統領の宣誓に続けて、（家族と共に）退場。）。

3 セラーノ国会議長演説の骨子

（１）富の公平な再分配、正義及び公正を達成するために、懸案となっている諸課題を解決することが国会の務めである。モレノ大統領及びグラス副大統領に、自分（「セ」国会議長）の任期中、国会が国内の諸問題を解決するための誠実で責任ある組織であり続けることを、約束する。

（２）モレノ新政権が政府計画及び選挙キャンペーンでの公約を守ることは確実である。また、国会が、諸約束が実行に移されるよう働くことも確かである。国会は、貧困及び不平等と闘うための言動が一致し、市民の権利が強化されるよう、努力する。

（３）国会を構成する政治団体に対し、社会悪を撲滅するために一致団結するよう呼びかける。今日からエクアドルは民主主義の新しい時代を迎えた。進歩的・民主的社会の建設の継続を呼びかける。

（４）コレア大統領は、勇気と指導力をもって代表制民主主義を再考し、再分配型民主主義を強化した。統計上の数値も改善しているが、過去１０年間でコレア大統領は、統計の数値だけでは表現できないことを達成した。

（５）モレノ新大統領は、他者への愛と無償の奉仕で卓越した人物である。今日、我々は、エクアドルの将来について、過去に持ち得なかった大きな希望を有している。目的は必ず達成できる。

4 モレノ大統領就任演説ポイント

全体として、各層との「対話」を呼びかけ、「共同責任」を打ち出した演説であった。各分野についての言及は（１）以下の通り。なお、コレア前大統領との違いが目立った主な点は、

緊縮財政の強調（以下（１）の３点目）

民間経済との協働や生産・税制諮問委員会創設（同４点目）

野党への配慮の言及（同（２）の１点目）

報道の自由の尊重の言及（同３点目）

土曜日の「国民との対話集会」の取りやめ（同５点目）など。

（１）経済政策

- ドル化：ドル化経済強化，並行通貨の発行を否定。
- 債務：今後獲得する資金調達は，償還期間及び金利の条件を改善する。公的債務の再構築を行う。
- 財政：緊縮財政を行う大統領令に署名する。国民に真に必要とされる公共支出及び投資は行う。
- 生産：民間セクターと協働するため，生産・税制諮問委員会を創設する。
- 官民連携：企業家，農牧業，労働組合等との官民連携を行う。
- 輸出：高付加価値の輸出促進。一次産品輸出は続け，工業製品の輸出を促進する。

(2) 内政

- 野党勢力と建設的尊重関係を構築する。
- イデオロギーは，エクアドルであり，エクアドル国民である。全国民のための政治を行う。
- 報道の自由を尊重する。
- 汚職対策を行う。米国及びブラジルに，オデブレヒト社の収賄疑惑の関係者リストを要請する。
- 毎週土曜日の「国民との対話集会」は，継続しない。別の形で国民への報告を行う。
- 国民の了解を得ながら政治決定を行う。
- 外交：アマゾン保護のため地域プロセスを促進する。移民支援，コロンビア和平交渉，南南協力をを行う。
- 地域統合：アンデス共同体（CAN），南米諸国連合（UNASUR），ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）の枠組みでの地域統合を継続する。

(3) 社会政策

- 慈愛のミッション(mision ternura)：妊産婦及び幼児の保護。出生前診断の継続。
- 児童の栄養不足への対策：ミレニアム開発目標でエクアドルが達成できなかった唯一の目標の早期達成を目指す。
- 教育：若年層の職業選択の自由の保障を約束するとともに，教育の質を保つ。大学へのアクセスで地域間格差があるため，大学入学のための予備コースを創設し，国内の教育水準を均一にする。
- 麻薬対策：麻薬のマイクロトラフィックへの対策を徹底的に行う。要すれば，全国レベルでの非常事態宣言も発出する。
- 父子関係：家庭は社会の核であり，子供を養い，教育する責務がある。児童法を改正する。
- 問題を抱えた人々への特別な対応：麻薬・アルコール中毒，学校でのいじめ，

自殺，身体障害等への特別対応を行う。

●「派遣隊」：現存の「マヌエル・エスペホ派遣隊」を拡大し，暴力を受けた女性，孤児等への支援を行う。

●補助金：現在1人あたり月額50ドルの極貧層への補助金の上限を、150ドルへ引き上げる。障害者を抱える家庭及び高齢者へも補助金を支給。

●住宅：32万5000軒の住宅建設を行い，19万1000軒を無償で供与する。その他の住宅は低所得家庭へ支給。健康へのアクセスを得る権利がある。

(了)